

株式会社 元木土建

2022年度環境経営レポート

(対象期間:2022年 11月～2023年 10月)

2023年12月26日発行

1. 環 境 経 営 方 針

基本理念

私たちは、先人より受け継いだ故郷の自然を守り、より良い環境を次世代の子供たちに、引き継いでいく為、地域の社会資本の整備を通じて環境保全に取り組み、全社員一丸となって環境負荷の低減に努めます。

方 針

当社は事業活動に伴う環境負荷を低減するために、次の方針に基づき、環境に配慮した活動を継続的に行っていきます。

- (1) 当社の営業活動とその製品が環境に与える影響を常に認識し、自主的かつ積極的に環境負荷の低減に努めます。
- (2) 当社の営業活動及び製品に関する環境関連の法令、徳島県条例、三好市条例、その他を厳守します。
- (3) 当社の営業活動及び製品に関わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - ① 二酸化炭素 (CO₂)の削減
 - ② 水資源使用量の削減
 - ③ 廃棄物の削減(リサイクルの推進)
 - ④ 事務用紙使用量の削減
 - ⑤ 事務所周辺の清掃等社会貢献
 - ⑥ 施工における環境配慮の推進
 - ⑦ 新入社員の雇用と教育及び力量向上の推進
- (4) 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポート等で社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムを推進します。

制定日	2012年1月1日
改定日	2019年12月1日

株式会社 元木土建

代表取締役 元 木 啓 悟

2. 取組の対象組織・活動

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 元木土建
代表取締役 元木 啓悟
- (2) 所在地
本 社 徳島県三好市井川町井内東5980番地1
資材倉庫 徳島県三好市井川町井内竹の尾1535番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 元木 啓悟
連絡担当者 元木 啓悟
TEL:0883-78-2847
- (4) 事業内容
・建設業許可 徳島県知事(特一4)第1075号 土木工事業
建築工事業
とび・土工工事業
管工事業
舗装工事業
水道施設工事業
解体工事業
・地すべり対策工事業、浄化槽設置工事業
- (5) 事業の規模
売上高 39,363 万円 (2022年11月～2023年10月)
- | | | | |
|-------|------|-------|-----|
| | 本社 | 資材倉庫 | 現場 |
| 従業員 | 3名 | 無人 | 14名 |
| 延べ床面積 | 266㎡ | 1150㎡ | — |
- (6) 事業年度 11月～10月

□認証・登録の対象組織・活動

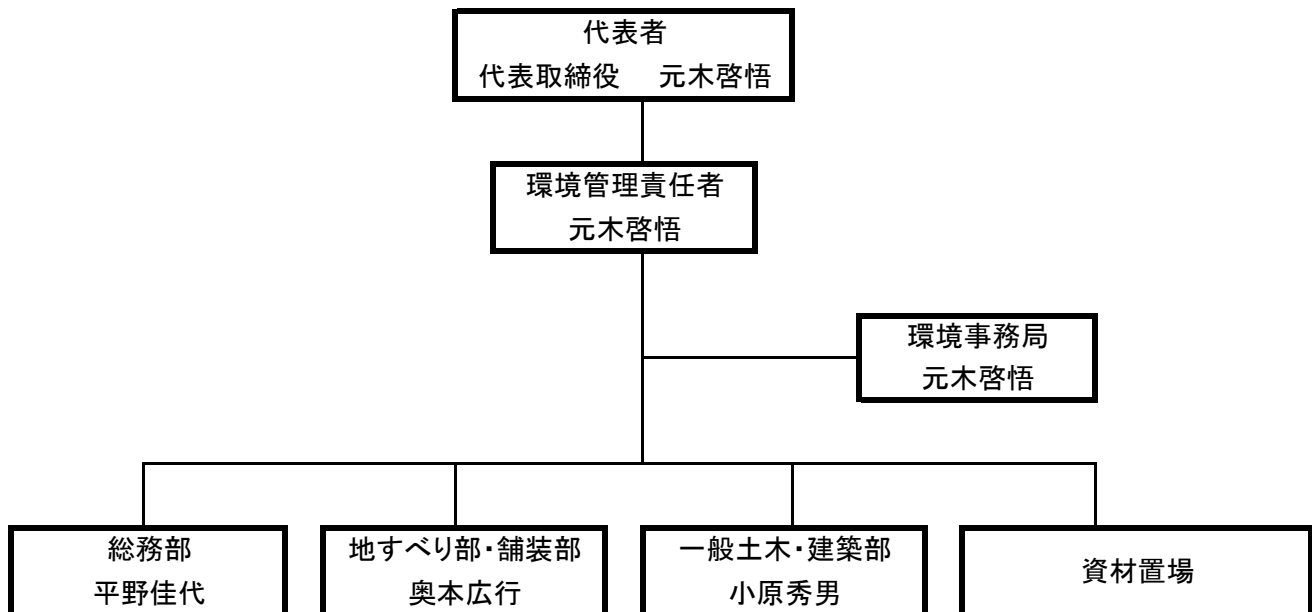
登録組織名: 本社
資材倉庫

活動: 土木工事業
建築工事業
とび・土工工事業
管工事業
舗装工事業
水道施設工事業
解体工事業
地すべり対策工事業
浄化槽設置工事業

上記、全組織・全活動とする。

今年度の活動期間: 2022年11月1日～2023年10月31日

3. 環境経営システム組織図



担当者	役割・権限及び責任
代表者 元木啓悟	・ 環境経営に関する統括責任
	・ 環境経営システムの実施及び管理に必要な人、設備費用、時間を用意する。
	・ 環境管理責任者を任命する。
	・ 環境経営方針の策定・見直および全従業員への周知。
	・ 活動全体を文政評価して、関係者全員に周知する。
環境管理責任者 元木啓悟	・ 環境経営システムを構築し、実施・管理を行う。
	・ 「環境関連法等の一覧表」を承認。
	・ 環境経営計画書を承認。
	・ 環境経営計画書達成分析及び評価結果を代表者へ報告
環境事務局 元木啓悟	・ 環境管理責任者、EA21推進会議事務局。
	・ 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施。
	・ 「環境関連法等の一覧表」の作成。
	・ 環境経営目標・環境経営実施計画書原案の作成。
	・ 環境経営計画の実績集計
	・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
各部門長	・ 自部門における環境経営システムの実施。
	・ 自部門における環境経営方針の周知。
	・ 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。
	・ 自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告。
	・ 特定された項目の手順書作成及び運用管理。
	・ 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成・テスト・訓練・記録。
	・ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置。
全従業員	・ 環境経営方針を理解し環境への取組みの重要性を自覚する。
	・ 自主的・積極的に環境活動へ参加する。

4-1. 環境経営目標（事務所）

□ 環境経営目標とその実績

1. 2018年度(基準年度) 主な環境負荷の実績

項 目	単 位	実 績
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	31,363
購入電力使用量	(kWh/年)	8,755
化石燃料(ガソリン)	(L/年)	9,983
一般廃棄物の削減	(kg/年)	110
事務(コピー)用紙使用量の削減	(枚/年)	21,422
水資源使用量の削減	(m ³ /年)	220
新入社員雇用の推進	(人/年)	—

※ 1 2018年度(2018年11月～2019年10月)の実績を把握し一覧表を作成した。
2 アドプト実施 (4月、8月、12月)

2. 3年間の目標

項 目	単 位	目 標 2022年度		目 標 2023年度		目 標 2024年度	
		数 量	基準年度比	数 量	基準年度比	数 量	基準年度比
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	30,422	3.0%減	30,265	3.5%減	30,108	4.0%減
購入電力使用量	(kWh/年)	8,492	3.0%減	8,449	3.5%減	8,405	4.0%減
化石燃料	(L/年)	9,684	3.0%減	9,634	3.5%減	9,584	4.0%減
一般廃棄物の削減	(kg/年)	107	3.0%減	106	3.5%減	106	4.0%減
事務(コピー)用紙使用量の削減	(枚/年)	20,779	3.0%減	20,672	3.5%減	20,565	4.0%減
水資源使用量の削減	(m ³ /年)	213	3.0%減	212	3.5%減	211	4.0%減
新入社員雇用の推進	(人/年)	1	—	1	—	1	—

基準年度: 2018年度

評価日 : 2023年12月22日

評価者 : 元木啓悟

3. 2022年度の目標達成度

※2022年11月～2023年10月の実績

項 目	単 位	目 標 2022年度 基準年度比3.0%減	実 績 2022年11月～ 2023年10月	削減率	達成率	評価
				(%)		
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	30,422	28,474	-9.21	106.84	○
購入電力使用量	(kWh/年)	8,492	8,579	-2.01	98.99	○
化 石 燃 料	(L/年)	9,684	9,473	-5.11	102.22	○
一般廃棄物の削減	(kg/年)	107	111	0.91	96.40	○
事務(コピー)用紙使用量の削減	(枚/年)	20,779	19,327	-9.78	107.51	○
水資源使用量の削減	(m ³ /年)	213	221	0.45	96.38	○
新入社員雇用の推進	(人/年)	1	1	—	100.00	○
(総合評価)	事務所におけるエネルギー使用量は比較的固定数値となりつつあるものの、環境経営計画の具体的取組により項目すべての目標が達成となった。新規雇用も進んでおり、さらなる社内活性化にもつながることに期待したい。					
(今後の取組)	取組の継続と更なるエネルギー使用量削減に努める。					

※ 購入電力の排出係数は、四国電力の2019年度実績の調整後排出係数 0.528 (kg-CO₂/kWh) を使用

※ 評価(目標に対する割合) = $\frac{\text{実績}-\text{目標}}{\text{目標}} \times 100\%$

95～100% : ○
80～94% : △
80%未満 : ×

4-2. 環境経営目標（現場）

□ 環境経営目標とその実績

1. 2018年度(基準年度) 主な環境負荷の実績

項 目	単 位	実 績
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	95,211
化石燃料(軽油)	(L/年)	36,280
廃棄物の削減	(t/年)	497
アドプト及びボランティア	(回/年)	3
再生資源の利用	%	100
工期短縮	(件/年)	3
社員教育の実施	—	—

※ 1 2018年度(2018年11月～2019年10月)の実績を把握し一覧表を作成した。
 2 型枠材料については使用可能工種においては県産杉材による木製パネルを使用する。

2. 3年間の目標

項 目	単 位	目 標 2022年度		目 標 2023年度		目 標 2024年度	
		数 量	基準年度比	数 量	基準年度比	数 量	基準年度比
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	92,355	3.0%減	91,879	3.5%減	91,403	4.0%減
化石燃料(軽油)	(L/年)	35,192	3.0%減	35,010	3.5%減	34,829	4.0%減
廃棄物の削減	(t/年)	482	3.0%減	479	3.5%減	477	4.0%減
アドプト及びボランティア	(回/年)	5	—	5	—	5	—
再生資源の利用	%	100	—	100	—	100	—
工期短縮	(件/年)	3	—	3	—	3	—
社員教育の実施	%	100	—	—	—	—	—

基準年度：2018年度

評価日：2023年12月22日

評価者：元木啓悟

3. 2022年度の目標達成度

※2022年11月～2023年10月の実績

項 目	単 位	目 標 2022年度 基準年度比3.0%減	実 績 2022年11月～ 2023年10月	削減率	達成率	評価
				(%)		
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	92,355	95,594	0.40	96.61	○
化 石 燃 料(軽油)	(L/年)	35,192	37,052	2.13	94.98	△
廃棄物の削減	(t/年)	482	239	-51.91	201.67	○
アドプト及びボランティア	(回/年)	5	5	—	100.00	○
再生資源の利用	%	100	100	—	100.00	○
工期短縮	(件/年)	3	4	—	133.33	○
社員教育の実施	—	100	100	—	100.00	○

(総合評価)

土工の多い現場では、重機やダンプ等の燃料使用も比例して多いが、作業計画の策定と周知、重機や人員の適正配置により燃料使用を少なくすることができている。また、これらの取組により工期も短縮できたことによる相乗効果もあった。

(今後の取組)

現在策定している中長期目標は継続して運用していく。

※ 購入電力の排出係数は、四国電力の2019年度実績の調整後排出係数 0.528 (kg-CO₂/kWh) を使用

※ 評価(目標に対する割合) = $\frac{\text{実績}-\text{目標}}{\text{目標}} \times 100\%$

95～100% : ○

80～94% : △

80%未満 : ×

5. 次年度以降の中長期環境経営目標

【事務所】

項 目	単 位	目 標 2022年度		目 標 2023年度		目 標 2024年度	
		数 量	基準年度比	数 量	基準年度比	数 量	基準年度比
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	30,422	3.0%減	30,265	3.5%減	30,108	4.0%減
購入電力使用量	(kWh/年)	8,492	3.0%減	8,449	3.5%減	8,405	4.0%減
化 石 燃 料	(L/年)	9,684	3.0%減	9,634	3.5%減	9,584	4.0%減
一般廃棄物の削減	(kg/年)	107	3.0%減	106	3.5%減	106	4.0%減
事務(コピー)用紙使用量の削減	(枚/年)	20,779	3.0%減	20,672	3.5%減	20,565	4.0%減
水資源使用量の削減	(m ³ /年)	213	3.0%減	212	3.5%減	211	4.0%減
新入社員雇用の推進	(人/年)	1	—	1	—	1	—

基準年度：2018年度

【現 場】

項 目	単 位	目 標 2022年度		目 標 2023年度		目 標 2024年度	
		数 量	基準年度比	数 量	基準年度比	数 量	基準年度比
二酸化炭素排出量	(kg-CO ₂)/年	92,355	3.0%減	91,879	3.5%減	91,403	4.0%減
化 石 燃 料(軽油)	(L/年)	35,192	3.0%減	35,010	3.5%減	34,829	4.0%減
廃棄物の削減	(t/年)	482	3.0%減	479	3.5%減	477	4.0%減
アドプト及びボランティア	(回/年)	5	—	5	—	5	—
再生資源の利用	%	100	—	100	—	100	—
工期短縮	(件/年)	3	—	3	—	3	—
社員教育の実施	—	—	—	—	—	—	—

基準年度：2018年度

6-1. 2022年度 環境活経営画書(事務所) 達成分析及び評価

(2022.11.1 ~ 2023.10.31)

達成チェック 1月 4月 7月 10月

重点テーマ	具体的項目	担当者	スケジュール												達成状況(担当者)				全体評価	備考
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	4	7	10		
環境経営目標	二酸化炭素排出量(LPG・電気・燃料)	総務													○	○	○	○	○	
	上水使用量	総務													○	○	○	○	○	
	廃棄物の減量	総・工務													○	○	○	○	○	
環境経営計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する	総務													—	—	○	○	○	
	冬場の暖房温度を20～25℃に設定する	総務													○	○	—	—	○	
	照明機器、クーラー、窓の掃除を年1回行う	総務													○	○	○	○	○	
	事務所が無人の場合は点灯数を減らす	総務													○	○	○	○	○	
②燃料使用量の削減	車の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	総・工務													○	○	○	○	○	
③廃棄物排出量の削減	一般廃棄物の分別を徹底する	総・工務													○	○	○	○	○	
④事務用紙使用量の削減	裏紙利用の励行	総・工務													○	○	○	○	○	
	印刷ミスを減らす	総・工務													○	○	○	○	○	
⑤上水使用量の削減	節水コマをつける	総・工務													○	○	○	○	○	
⑥新入社員雇用の推進	会社のアピール、口コミ、ハローワーク	総・工務													○	○	○	○	○	
⑦その他	社内の5S活動を推進する	総・工務													◎	◎	◎	◎	◎	
	会社周辺の清掃美化活動を推進する	総・工務													◎	◎	◎	◎	◎	

達成状況 ◎ 十分できている
○ ほぼできている
△ まだ不十分である
× できていない

6-1. 2022年度環境経営計画書(事務所) 評価コメント及び次年度の取組内容

(2022.11.1 ~ 2023.10.31)

重点テーマ	具体的項目	評価コメント	次年度の取組内容
環境活動計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する 冬場の暖房温度を20～25℃に設定する 照明機器、クーラー、窓の掃除を年1回行う 事務所が無人の場合は点灯数を減らす	照明のLED化、省エネエアコンの使用により電気使用量削減につながっている。また、働き方改革としての週休二日制の導入もエネルギー使用量削減につながっていると思われる。	取り組みを継続する。
②燃料使用量の削減	車の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	メールや情報共有システムの利用により、関係機関への書類の提出等が少なくなった為、車両の使用が以前より少なくなった。また、HV車の使用が燃料削減にもつながっている。	取り組みを継続する。
③廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別を徹底する	事務所内では一般廃棄物の分別をこまめに行っている。	取り組みを継続する。
④事務用紙使用量の削減	裏紙利用の励行 印刷ミスを減らす	メールや電子納品等、裏紙や両面コピーの利用等を積極的に行った。	取り組みを継続する。
⑤上水使用量の削減	節水コマをつける	無駄な使用はしていない。	取り組みを継続する。
⑥新入社員雇用の推進	会社のアピール、口コミ、ハローワーク	新規雇用ができており、若手及び中途採用を継続して実施できた。	積極的雇用の促進を継続する。
⑦その他	社内の5S活動を推進する	事務所内において、教育訓練やコミュニケーションを利用して周知実施している。	取り組みを継続する。
	会社周辺の清掃美化活動を推進する	アドプト活動を通じた清掃活動を実施した。	取り組みを継続する。

6-2. 2022年度環境経営計画書(現場) 達成分析及び評価

(2022.11.1 ~ 2023.10.31)

達成チェック 1月 4月 7月 10月

重点テーマ	具体的項目	担当者	-												達成状況(担当者)				全体評価	備考
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	4	7	10		
環境経営目標	二酸化炭素排出量(LPG・電気・燃料)	工務													○	○	○	○	○	
	廃棄物の減量	工務													○	○	○	○	○	
環境経営計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する	工務													—	—	○	○	○	
	冬場の暖房温度を20～25℃に設定する	工務													○	○	—	—	○	
	事務所が無人の場合は点灯数を減らす	工務													○	○	○	○	○	
②燃料使用量の削減	車・重機の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	工務													○	○	○	○	○	
③廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別を徹底する	工務													◎	◎	◎	◎	◎	
	コン・アスコン殻は再生処理施設へ搬出する	工務													◎	◎	◎	◎	◎	
	施工ミスによる廃棄物を出さない	工務													◎	◎	◎	◎	◎	
④アドプト及びボランティア等	アドプト及びボランティアの実施	工務													○	○	○	○	○	
⑤再生資源の利用	再生資源の利用	工務													○	○	○	○	○	
⑥工期短縮	作業手順の周知と適切な配置計画	工務													○	△	○	○	○	
⑦社員教育の実施	ミーティング全員参加	工務													◎	◎	◎	◎	◎	
	資格等取得のための教育の実施	工務													○	○	○	○	○	

達成状況
 ◎ 十分できている
 ○ ほぼできている
 △ まだ不十分である
 × できていない

6-2. 2022年度環境経営計画書(現場) 評価コメント及び次年度の取組内容

(2022.11.1 ~ 2023.10.31)

重点テーマ	具体的項目	評価コメント	次年度の取組内容
環境活動計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する 冬場の暖房温度を20～25℃に設定する 事務所が無人の場合は電気を消す	事務所と同様に取組みが実施されている。	取組みを継続する。
②燃料使用量の削減	車・重機の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	暖気運転だけでなく、作業効率の良い作業と段取りにより燃料使用量削減につなげた。	取組みを継続する。
③廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別を徹底する コン・アスコン殻は再生処理施設へ搬出する 施工ミスによる廃棄物を出さない	産業廃棄物は適正分別適正処理の実施ができています。	取組みを継続する。
④アドプト及びボランティア等	アドプト及びボランティアの実施	事務所と同様に取組みが実施されている。 また、各現場ごとに清掃活動が実施できている。	取組みを継続する。
⑤再生資源の利用	再生資源の利用	顧客要求事項に基づき、再生資源の利用、県産資材の使用が継続して実施できている。	取組みを継続する。
⑥工期短縮	作業手順の周知と適切な配置計画	作業計画の策定と周知、重機やダンプ、人員の適正配置を行うことによって工期短縮につながっている。また、ICT施工や情報共有システムの導入により現場環境もよくなっている。	取組みを継続する。
⑦社員教育の実施	ミーティング全員参加	社員及び関係各社参加のミーティングを実施、工事内容やEA21の周知を行った。	取組みを継続する。
	資格等取得のための教育の実施	施工管理技士、各作業主任者等の資格取得を必要に応じ順次受講させた。	取組みを継続する。

7-1. 2023年度 環境経営計画書(事務所)

(2023.11.1 ~ 2024.10.31)

重点テーマ	具体的項目	担当者	スケジュール												備 考
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
環境経営目標	二酸化炭素排出量(LPG・電気・燃料)	総務													
	上水使用量	総務													
	廃棄物の減量	総・工務													
環境経営計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する	総務													2023年度は1年間(2023年11月～2024年10月)の達成度を分析する。
	冬場の暖房温度を20～25℃に設定する	総務													
	照明機器、クーラー、窓の掃除を年1回行う	総務													
	事務所が無人の場合は点灯数を減らす	総務													
②燃料使用量の削減	車の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	総・工務													
③廃棄物排出量の削減	一般廃棄物の分別を徹底する	総・工務													
④事務用紙使用量の削減	裏紙利用の励行	総・工務													
	印刷ミスを減らす	総・工務													
⑤上水使用量の削減	節水コマをつける	総・工務													
⑥新入社員雇用の推進	会社のアピール、口コミ、ハローワーク	総・工務													
⑦その他	社内の5S活動を推進する	総・工務													
	会社周辺の清掃美化活動を推進する	総・工務													

7-2. 2023年度 環境経営計画書(現場)

(2023.11.1 ~ 2024.10.31)

重点テーマ	具体的項目	担当者	スケジュール												備 考
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
環境経営目標	二酸化炭素排出量(LPG・電気・燃料)	工務													
	廃棄物の減量	工務													
環境経営計画 ①電力使用量の削減	夏場の冷房温度を23～28℃に設定する	工務													2023年度は1年間(2023年11月～ 2024年10月)の達成度を分析する。
	冬場の暖房温度を20～25℃に設定する	工務													
	事務所が無人の場合は点灯数を減らす	工務													
②燃料使用量の削減	車・重機の暖気運転時間を短くする(30秒以内)	工務													
③廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別を徹底する	工務													
	コン・アスコン殻は再生処理施設へ搬出する	工務													
	施工ミスによる廃棄物を出さない	工務													
④アドプト及びボランティア等	アドプト及びボランティアの実施	工務													
⑤再生資源の利用	再生資源の利用	工務													
⑥工期短縮	作業手順の周知と適切な配置計画	工務													
⑦社員教育の実施	ミーティング全員参加	工務													
	資格等取得のための教育の実施	工務													

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法等厳守チェック表（事務所，現場）

法 令 ま た は 条 例	遵守 チェック	備 考
環 境 基 本 法	レ	環境一般
地 球 温 暖 化 対 策 法	レ	
グ リ ー ン 購 入 法	レ	
環 境 配 慮 事 業 促 進 法	レ	
公 害 防 止	レ	
森 林 ・ 林 業 基 本 法	レ	
廃 棄 物 の 処 理 及 び 清 掃 に 関する法律	レ	廃棄物
建 設 工 事 に 係 る 資 材 の 再 資 源 化 等 に 関 す る 法 律	レ	
資 源 有 効 利 用 促 進 法	レ	
フ ロ ン 搬 出 抑 制 法	レ	大気汚染
大 気 汚 染 防 止 法	レ	
労 働 安 全 衛 生 法	レ	
特 定 特 殊 自 動 車 排 出 ガ ス の 規 制 等 に 関 す る 法 律	レ	
河 川 法	レ	水質汚濁
浄 化 槽 法	レ	
騒 音 規 制 法	レ	騒音
振 動 規 制 法	レ	振動
地 方 条 例 (徳 島 県 ・ 三 好 市 関 連)	レ	

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、
環境関連法規制等は遵守されていました。
また、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し

見 直 し 項 目	変更の必要性 ・ 指示事項
1. 環境経営方針	変更なし
2. 環境経営目標	〃
3. 環境経営計画	〃
4. 実施体制	〃
5. その他	〃

【総括】

- ・環境経営計画の取組みが事務所および現場で適切に実施されていたことにより、環境経営目標は概ねすべての項目で達成した。
- ・エネルギー使用量の多い現場では、作業計画の策定と周知、重機やダンプ、人員の適正配置を行うことによって工期短縮につながった。またICT施工や情報共有システムの導入により現場作業環境もよくなっている。
- ・新規雇用の継続で、平均年齢の若返りと技術及び技能の継承を行い会社をさらに盛り上げていきたい。